



ENEOS

CORPORATE PROFILE

ENEOSグループ株式会社 会社案内



ENEOSホールディングス株式会社

CONTENTS



「今日のあたり前」を支え、
「明日のあたり前」をリードする。

グループ理念 ————— P03

ホールディングス組織図・体制 ————— P04

長期ビジョンと事業の将来像 ————— P05

カーボンニュートラル基本計画 ————— P06

ENEOSグループ各事業会社紹介 ————— P10

ESGへの取り組み ————— P17

沿革 ————— P19

会社概要 ————— P20

ENEOSグループ理念

使命

地球の力を、社会の力に、そして人々の暮らしの力に。
エネルギー・資源・素材における創造と革新を通じて、社会の発展と活力ある未来づくりに貢献します。

大切にしたい価値観

社会の一員として

高い倫理観

誠実・公正であり続けることを価値観の中核とし、高い倫理観を持って企業活動を行います。

安全・環境・健康

安全・環境・健康に対する取り組みは、生命あるものにとって最も大切であり、常に最優先で考えます。

人々の暮らしを支える存在として

お客様本位

お客様や社会からの期待・変化する時代の要請に真摯に向き合い、商品・サービスの安定的な供給に努めるとともに、私たちだからできる新たな価値を創出します。

活力ある未来の実現に向けて

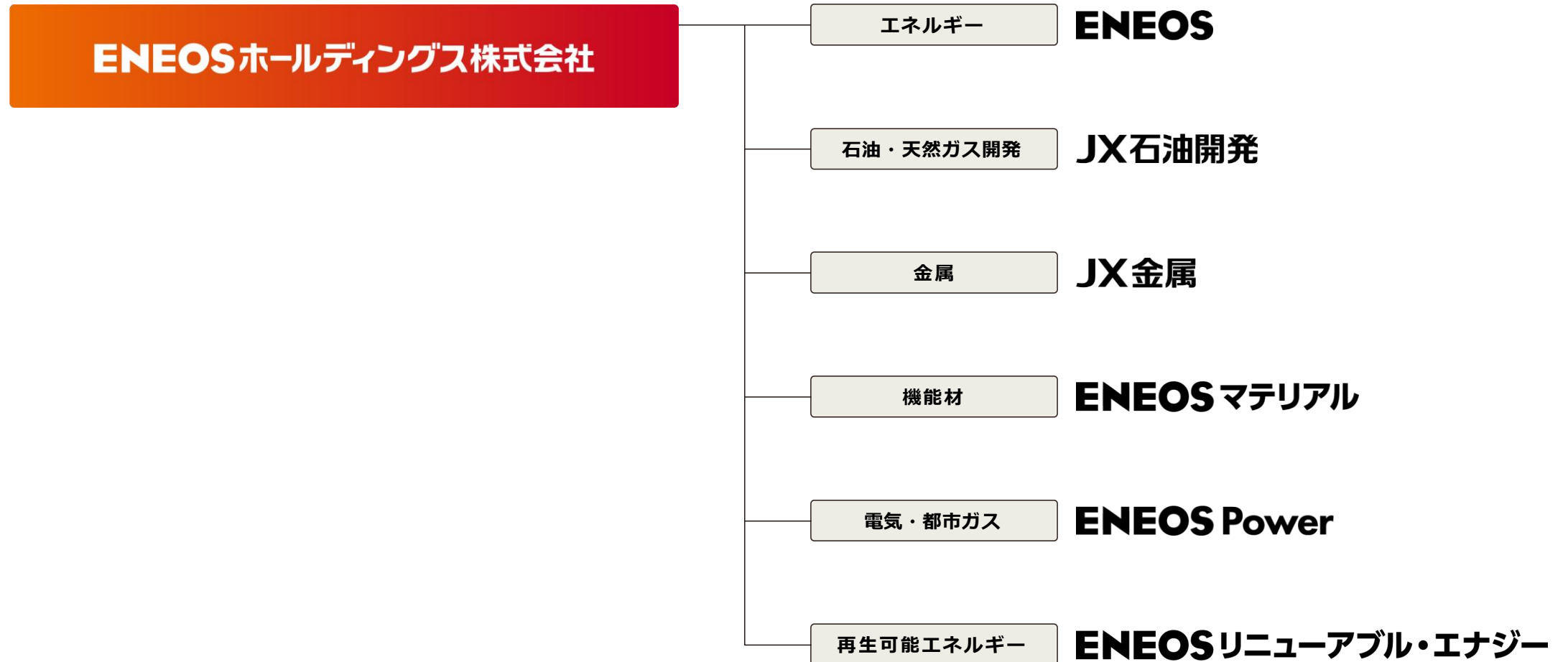
挑戦

変化を恐れず、新たな価値を生み出すことに挑戦し続け、
今日の、そして未来の課題解決に取り組みます。

向上心

現状に満足せず、一人ひとりの研鑽・自己実現を通じて、会社と個人がともに成長し続けます。

ホールディングス組織図・体制



長期ビジョンと事業の将来像

『エネルギー・素材の安定供給』という責任を、「今」も「将来」も果たしながら、エネルギーのトランジションによって、『カーボンニュートラル社会』を実現させる。人類にとっても大きなチャレンジであるこの課題を、私たちENEOSグループは着実に成し遂げていくことで、企業価値の最大化を図っていきます。



ENEOSグループ 長期ビジョン

ENEOSグループは、
『エネルギー・素材の安定供給』と
『カーボンニュートラル社会の実現』
との両立に向け挑戦します。



◀会社情報サイト
(経営方針・長期ビジョン・中期経営計画)

様々なシナリオに対応する高いレジリエンスとポテンシャル

エネルギートランジションの複数シナリオに対応できる次世代エネルギーの取り組みや、デジタル社会を支える素材、社会インフラとしての生活プラットフォームが強みです。



エネルギー トランジション

再生可能エネルギー

- EREの高い電源開発能力
- AIを活用した再生エネルギー発電予測による需給バランス最適化

CCS

- 米国事業で蓄積した貯留関連ノウハウ

水素、SAF、バイオ燃料・合成燃料

- 石油精製販売サプライチェーンのASET活用
- GI基金活用等による実証・研究の加速
- 国内外の有力企業との戦略的な提携関係



素材 (デジタル化・リサイクル進展)

機能材

- 世界トップ級シェアの低燃費タイヤ原料
- 顧客ニーズに対応した高い製品開発・生産能力

先端素材

- トップシェアの製品群（データ社会の中心素材）
- 資源開発・製錬事業で培った高純度化・リサイクル技術



生活プラットフォーム (車両の電化・シェアリング進展)

EV充電

- 地域に根差した強固な全国のSSネットワーク
- 経路充電サービス「ENEOS Charge Plus」を展開（国内6千基超の普通充電網を保有）

フリートマネジメント

- 全国に展開する車両整備のネットワーク

カーボンニュートラル基本計画

カーボンニュートラル基本計画

ENEOSグループは、カーボンニュートラル社会の実現に向けて自社の活動に伴う温室効果ガス排出削減を進めるとともに、社会の温室効果ガス排出削減に貢献するため、「エネルギーtransition」と「サーキュラーエコノミー」を推進します。

これらを実行するためのロードマップとして、カーボンニュートラル基本計画を策定しました。

ENEOSグループの温室効果ガス排出削減

将来の炭素価格上昇に対する備え

- 2040年度に向けて、当社排出分（Scope1+2）のカーボンニュートラル実現を目指す。
- 2030年度に向けて、温室効果ガス46%の削減（2013年度対比）を目指す。
- カーボンニュートラル実現に向け、当社の温室効果ガス排出抑制、CCS（CO₂の回収・貯留）、CO₂除去（森林吸収等）に広く取り組む。

取り組み方針

温室効果ガスの排出抑制

CO₂の人為的固定化

CO₂の自然吸収増加

施策

- （需要に応じた）適正な原油処理
- 製造・事業の効率化（省エネ・燃料切替・再生可能エネルギー活用等）
- カーボנקレジットの活用
- CCS（CO₂の回収・貯留）
- CCSを活用したBECCS※1・DACCS※2等の新規手法
- 森林吸収（植林・森林管理等）
- 他の自然吸収手法（ブルーカーボン・土壌炭素固定等）

※1 BioEnergy with Carbon Capture and Storage バイオマス発電時に排出されたCO₂の回収・貯留

※2 Direct Air Carbon dioxide Capture and Storage 大気からのCO₂直接回収・貯留

カーボンニュートラル基本計画

社会の温室効果ガス排出削減への貢献

カーボンニュートラルを将来の事業の柱に

- 政府や他企業と歩調を合わせて取り組み、2050年度に向けてScope3を含め、カーボンニュートラル実現を目指す。
- エネルギー分野では、再生可能エネルギー拡大、水素・カーボンニュートラル燃料等の早期実用化を通じてエネルギートランジションを推進し、2040年度を目途にエネルギー供給当たりのCO₂排出量（CI※）の半減を目指す。
- 素材・サービス分野では、素材原料転換等によるサーキュラーエコノミーの推進、削減貢献量の拡大に取り組む。

取り組み方針

エネルギー分野における
排出削減への貢献

素材・サービス分野における
排出削減への貢献

施策

- エネルギートランジションの推進
（水素・カーボンニュートラル燃料・再生可能エネルギー等）
- サーキュラーエコノミーの推進
（リサイクル・シェアリング等）
- 削減貢献につながる製品の供給拡大

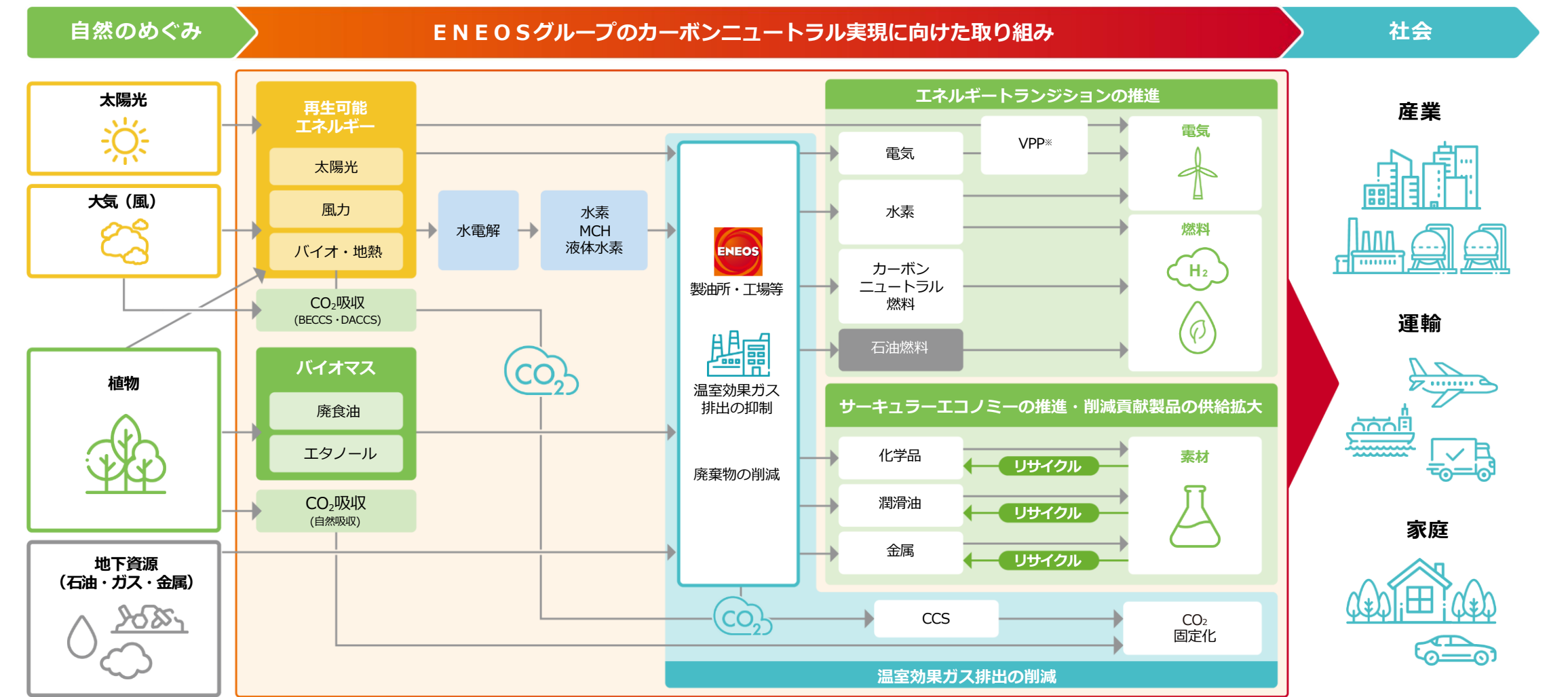
※ Carbon Intensity 炭素強度



◀ カーボンニュートラル基本計画

カーボンニュートラル基本計画

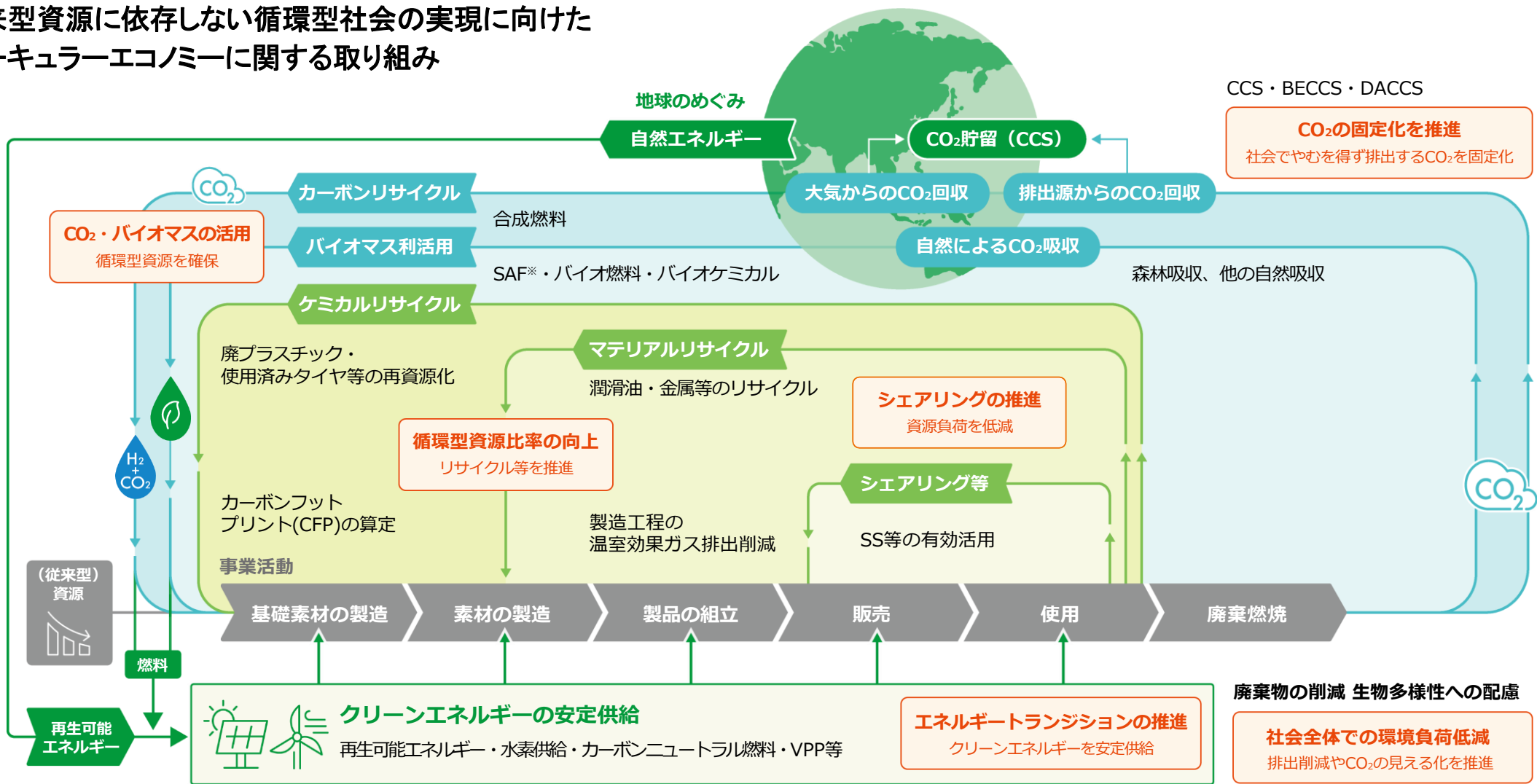
カーボンニュートラル基本計画の概念図



※ Virtual Power Plant バーチャルパワープラント

カーボンニュートラル基本計画

従来型資源に依存しない循環型社会の実現に向けた
サーキュラーエコノミーに関する取り組み



※ Sustainable Aviation Fuel 持続可能な航空燃料

ENEOSグループ各事業会社紹介

「エネルギー」、「石油・天然ガス開発」、「金属」、「機能材」、「電気・都市ガス」、「再生可能エネルギー」を扱う各社を、当社の主要な事業会社として位置付け、各事業の成果を更に見える化することにより、各事業の資本効率を追求する自律型経営に移行します。



ENEOSグループ各事業会社紹介

エネルギー

ENEOS

全国約12,000カ所のサービスステーションネットワークを持つ「ENEOS」ブランドを展開。日本の各地にある製油所、製造所にて生産、製造する石油製品、石油化学製品のほか、水素や合成燃料等のエネルギートランジションに向けた事業を展開しています。

石油製品（ガソリン・灯油・潤滑油等）の精製および販売

ガスの輸入および販売

石油化学製品等の製造および販売

水素の供給

WEBサイトはこちらから ▶



ENEOSグループ各事業会社紹介

石油・天然ガス開発

JX石油開発

国内を含む世界各地で石油・天然ガスの開発・生産事業を展開。

「基盤事業」である石油・天然ガスの開発・生産事業を軸としつつ、CCS/CCUS※を中心とした環境対応型事業を「成長事業」としてもう一つの軸とする「二軸経営」を推進しています。

石油・天然ガス

マレーシア・インドネシア・パプアニューギニア等において優良LNG資産を保有し、日本をはじめアジア各国へ供給

CCS / CCUS

世界最大規模であるPetra Nova CCUSプロジェクト（アメリカ）を事業化
この知見を強みに、国内、マレーシアそしてオーストラリア等でのCCS実装に向けた取り組みを加速

※Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage CO₂回収・利用・貯留

WEBサイトはこちらから ▶



ENEOSグループ各事業会社紹介

金属

JX金属

IoT、AI化が進展する社会に欠かせない先端素材の製造・開発をはじめ、資源の開発・製錬、使用済み電子機器からのリサイクルまで、銅・レアメタルを中心とした非鉄金属に関する一貫した事業展開をグローバルに行っています。

半導体材料

各種スパッタリングターゲットやタンタル・ニオブ粉末など、
各種高機能デバイスへ応用できる製品を供給

情報通信材料

最先端のエレクトロニクス産業に欠かせない圧延銅箔や高機能銅合金を供給

基礎材料

- ・高品位でクリーンな銅資源の確保
- ・レアメタル鉱山の調査・開発
- ・金属・リサイクルの一体的な事業運営

WEBサイトはこちらから ▶



ENEOSグループ各事業会社紹介

機能材

ENEOSマテリアル

ENEOSグループにおける素材事業を担う会社として、合成ゴム、熱可塑性エラストマー、ラテックス、及びその他原材料の研究開発、製造、販売を行っています。エラストマー事業では60年以上にわたって国内外で各種合成ゴムを供給し、自動車産業をはじめとする各産業の発展に貢献しています。

1957年に誕生した合成ゴムのパイオニア

合成ゴムの国産化を目的に、国策企業として誕生したJSR（旧：日本合成ゴム株式会社）の歴史を受け継ぐ

テクノロジーを支える高い技術力

S-SBR（低燃費・高性能タイヤ用の合成ゴム）やリチウムイオン電池用のバインダーなど、豊富な製品群で幅広いものづくりに貢献

WEBサイトはこちらから ▶



ENEOSグループ各事業会社紹介

電気・都市ガス

ENEOS Power

発電から小売まで一貫した供給体制をもつ電気事業を中心に、蓄電池を活用したVPP事業、都市ガス事業、海外における再生可能エネルギー事業を展開。

ENEOSグループとして保有する200万kW以上の発電所を主力に電力の安定供給を行うとともに、再生可能エネルギーの活用にも積極的に取り組んでいます。

電力販売事業

- ・特別高圧／高圧電気
- ・低圧電気（ENEOSでんき）
- ・再エネ電気
（小売再エネメニュー・オフサイトPPAサービス）
- ・電力卸売

都市ガス販売事業

- ・家庭用向け都市ガス（ENEOS都市ガス）
- ・法人用向け都市ガス

電力買取事業

（ENEOS太陽光買取サービス）

WEBサイトはこちらから ▶



ENEOSグループ各事業会社紹介

再生可能エネルギー

ENEOSリニューアブル・エナジー

太陽光・風力・バイオマスなどの再生可能エネルギーによる発電事業に特化し、全国100カ所以上の発電所を建設・運営。再生可能エネルギー事業に対する専門性と経験・熱意を持った人材が集まり、地域の理解を得て地域に貢献しながら、開発から長期運営の一貫体制で脱炭素社会の実現をリードします。

太陽光発電

風力発電

バイオマス発電

運転・保守

ENEOSリニューアブル・エナジー・マネジメント

再エネ電力小売・トレーディング

ENEOSリニューアブル・エナジー・ソリューションズ

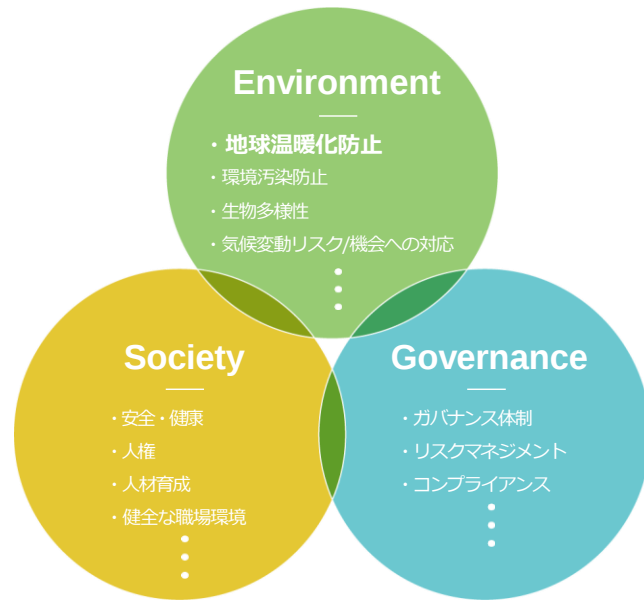
再資源化

エコグリーンホールディングス

WEBサイトはこちらから ▶



ESGへの取り組み



企業が持続的に成長するためには、事業活動を通して社会ニーズに応え続けるとともに、社会課題の解決に貢献することで社会から信頼され、価値を認められる存在でなければなりません。ENEOSグループは「ESG経営に関する基本方針」を定め、社会・事業の両面で重要な課題をESG重点課題として特定し、対応に取り組んでいます。

特に、当社グループに期待されている地球温暖化防止への対応について、その取り組みの一部を紹介します。

地球温暖化防止

ENEOSグループは、脱炭素・循環型社会の実現に向けて、サプライチェーン全体でのCO₂排出を削減します。事業活動における省エネルギー、再生可能エネルギー事業の拡大、水素・カーボンニュートラル燃料等の早期実用化、環境負荷を低減する環境配慮型商品の販売・開発を通じて社会全体の温室効果ガス排出削減に努めています。



ESGへの取り組み

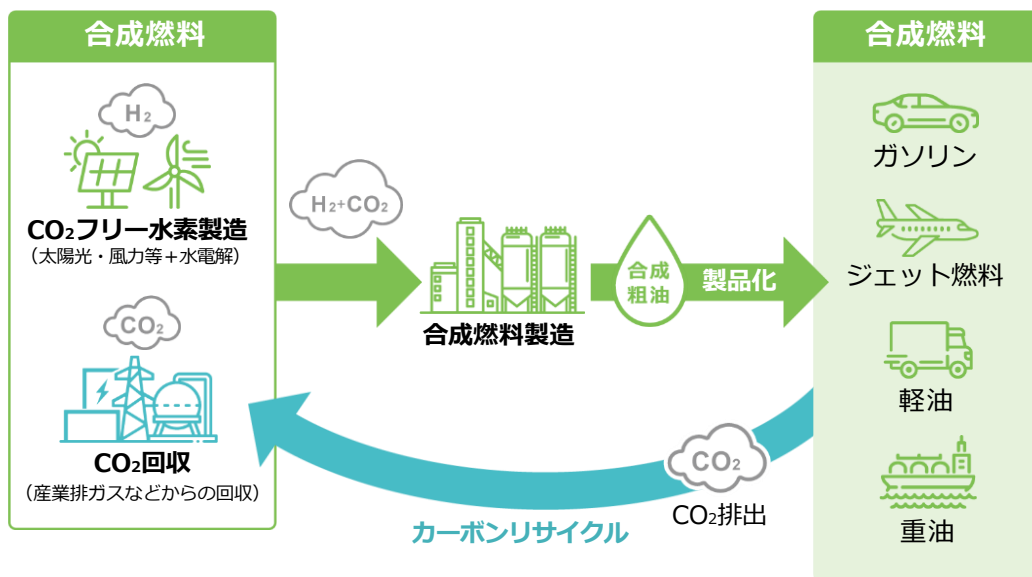
省エネルギーの推進

ENEOSグループのエネルギー事業では、製油所等の熱交換機の増設・効率化、回転機の高効率化等により省エネを推進しています。また、金属事業では、化石燃料等を用いず実質的にCO₂を排出しない「CO₂フリー電力」を国内の主要拠点で導入しました。

カーボンニュートラル燃料の開発

ENEOSは幅広い分野におけるカーボンニュートラル化に向け、ジェット燃料やガソリン、軽油等の化石燃料の代替となるカーボンニュートラル燃料の開発・供給体制の確立に取り組んでいます。カーボンニュートラル燃料は、合成燃料やバイオ燃料などが含まれ、特に合成燃料は再生可能エネルギー由来のCO₂フリー水素とCO₂を原料とするため、製品ライフサイクル全体でのCO₂排出量を抑制できることから、製造技術開発に注力しています。

● 合成燃料の製造工程



合成燃料を充填した車両



◀ ESG全体の取り組みは、ENEOS REPORT ESGデータブックに掲載しています。ぜひご参照ください。

沿革

1880-

産業・経済の発展へ

国産の石油を供給

1888 日本国内での原油生産・石油
精製販売（日本石油）



尼瀬油田

銅素材を安定確保

1905 銅鉱山開発・銅製錬を開始
（日立鉱山）



日立鉱山

1940-

高度経済成長へ、
石炭から石油へ

石油供給力を拡充

国内SS数の拡大全国各地への製油
所開設

製油所ネットワーク

●は2024年4月現在の製油所



1970-

オイルショック、
内需拡大へ

自主開発の石油を国内へ供給

1973 UAE・ムバラス油田生産開始



ランドン油田

情報化社会へ

電子材料の供給を拡大

1985 磯原工場開設（半導体材料）



磯原工場（開設時）

2000-

国内石油需要の減退と石油業界再編の 加速

新たな事業領域への展開

2013 メガソーラー順次設置
2014 水素ステーション順次開所



水素ステーション

2017 米国Petra Nova CCUSプロジェクト
CO₂回収プラント活用による原油生産
開始



米国・CO₂回収プラント

2020-

脱炭素社会へ

カーボンニュートラルの追求を表明

- 2019 水素の低コスト化に向けた有機ハイドライドに関する世界初の技術
検証に成功
- 2020 室蘭バイオマス発電所商業運転開始
- 2022 ジャパン・リニューアブル・エナジー（現ENEOSリニューア
ブル・エナジー）株式取得
ENEOSマテリアルでのエラストマー事業が始動
- 2023 米国大型森林ファンドへの出資
CCS/CCUSバリューチェーンの強化に向け日本海洋掘削（JDC）
株式取得



室蘭バイオマス発電所



鶴岡八森山風力発電所

大規模災害時のエネルギー安定供給

- 2011 東日本大震災に際しての取り組み
被災地外の製油所での増産等によって被災地域への供給量を確保。
また、タンクローリーを緊急移送して被災地域での燃料供給体制の
復旧に努め、震災発生翌月に安定的な製品供給を回復

グループ運営体制の変更

- 2024 ENEOSリソーシイズ&パワーカンパニーがENEOS Power
として独立、機能材カンパニーがENEOSマテリアルに統合
ジャパン・リニューアブル・エナジーがENEOSリニューア
ブル・エナジーに社名変更

会社概要



ENEOSホールディングス

商号	ENEOSホールディングス株式会社 (英文名称 ENEOS Holdings, Inc.)
本店所在地	〒100-8161 東京都千代田区大手町一丁目1番2号
設立年月日	2010年（平成22年）4月1日
事業の内容	エネルギー事業、石油・天然ガス開発事業、金属事業、機能材事業、電気・都市ガス事業、再生可能エネルギー事業を行う子会社およびグループ会社の経営管理ならびにこれに付帯する業務
資本金	1,000億円
ホームページアドレス	https://www.hd.eneos.co.jp 